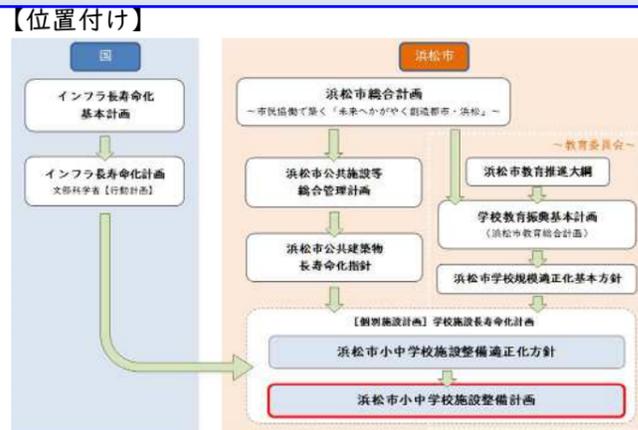


1 背景

【目的】「浜松市小中学校施設整備適正化方針」に基づき、「施設老朽化、教育環境の向上、その他諸課題」に一体的に対応した持続可能な学校施設を、計画的に整備していくことを目的に策定するもの
【計画期間】2025年度～2034年度（10年間）
※上位計画「浜松市小中学校施設整備適正化方針（2025年～2044年度）」の前期10年
【対象施設】小中学校主要施設 全475棟
【校舎、体育館、武道場、特別活動棟】



2 学校施設を取り巻く状況と課題

(1) 施設の状況

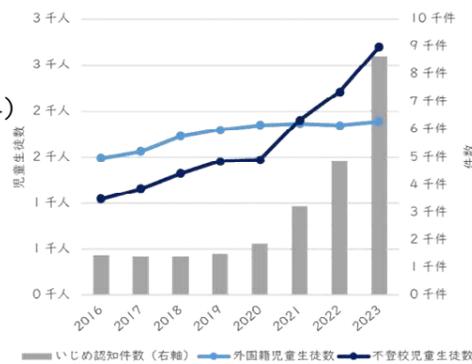
- ・所有学校施設は1970年代を中心に集中的に建設、その多くが更新時期を迎えている
・計画的な更新に向け、施設や設備の劣化状況等を正確に把握するための以下の各種調査を実施
①建築物劣化状況
②構造躯体圧縮強度・中性化
③給排水管ほか劣化状況
④バリアフリー適合状況
⑤教室配置・利用状況
⑥防球ネット等劣化状況

Table with 7 columns: 建物名\部位, 屋根, 外装, 内部, 便所, 電気設備, 機械設備. Rows include 校舎, 体育館, 武道場 特別活動室棟.

【判定】A：健全、B：良好、C：劣化進行（予防保全段階）、D：劣化顕著（要早期対応）

(2) 年少人口等の状況

- ・15歳未満人口（2020時）約10.2万人
・児童生徒数（2024-30年）児童数 19%減少 生徒数 9%減少
・外国籍児童生徒数 28%増加（8年間）
・不登校児童生徒数 260%増加（8年間）
・いじめ認知件数 6.2倍（8年間）



(3) 財政の状況

- ・社会保障費等の義務的経費が約52%を占め、今後も占める割合は増加の見通し（2024年度）
・平均約73億円/年の学校施設整備実績（過去5年間）
・築60年を目途とした改築、屋根・外壁改修や空調整備などを実施
・今後、築60年で改築する施設整備・更新を進めた場合、約192億円/年が必要となる。

(4) 課題

施設状況に応じた長寿命化対応
>学校内での施設築年数の違いや施設形態、改修履歴も様々
>施設状況に応じた効率的・効果的な施設整備を進めるための事業工夫が重要

多様化する教育環境への対応
>各種支援教室の増加やまなびのスタイルの変容により教室数不足
>施設規模・機能の適正化、社会ニーズ対応などを老朽化対策と併せて実施する必要あり

事業費の縮減と平準化
>中長期的な視点に基づく施設規模の設定、財政負担の軽減、予算の平準化に向け継続的に取り組む必要あり

3 学校施設整備の基本的な考え方

(1) 整備周期

予防保全と機能改良を基本とした「施設長寿命化サイクル」による目標使用年数80年を実現

- > 目標使用年数を60年から80年とした整備周期で進めることで年間約48億円のコスト縮減
> 事業工夫により年間約16億円の更なるコスト縮減と事業集中を避けた予算の平準化を実現

(2) 整備内容

耐用年数と機能向上を考慮した持続可能な施設利用に向けた整備

- > 小規模改修では、予防保全を目的に屋根・外壁改修を中心に実施
> 大規模改修では、レイアウト改修など機能・環境の改善整備を実施

(3) 更なる事業工夫

- ①6つのタイプに基づく施設整備
②学校単位での効率的な事業実施
③学校規模適正化や複合化・共用化等の検討

- > 劣化の進行実態や、国庫補助の適用条件、児童生徒数の将来推移（面積適正化時期）を考慮し、施設長寿命化サイクルを変則させた6つの事業タイプの設定による事業費の縮小・平準化を図る
> 異なる築年数でも可能な限り一斉整備を実施することで、事業の効率化を図る
> 相乗効果や交流促進による教育機能の向上を図った、他機能との施設複合化を積極的に検討

(4) 事業効果

- 長寿命化サイクルと事業工夫により年間約64億円の事業費縮減と予算の平準化を実現
> 目標使用年数を60年から80年とした整備周期で進めることで年間約48億円のコスト縮減
> 事業工夫により年間約16億円の更なるコスト縮減と事業集中を避けた予算の平準化を実現

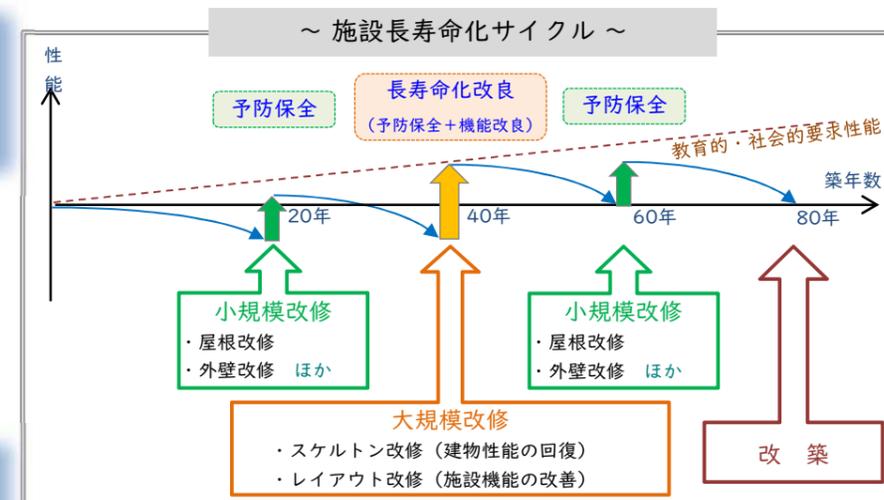


Table titled '整備タイプ（6分類）' showing maintenance types (e.g., 早期改築型, 延命改築型) and their corresponding measures and timelines.

新：改築時期 緑：大規模改修時期 紫：小規模改修時期

Table comparing costs for '従来の方針' (192.6 billion/year) and '新たな方針' (145.0 billion/year), showing a significant cost reduction and budget leveling.

浜松市小中学校施設整備計画

4 実施に向けて

今後の学校施設整備の実施に向けた実施計画（事業計画）と、この計画を補完する指標類により、社会情勢などの変化や指導要領等の改訂、施設劣化の進行に応じて計画や指標類の適切な見直しを行いながら、事業を持続的に推進していく

(1) 事業計画

- ▶ 本計画期間10年間の整備校数や整備費用を取りまとめた事業計画
 - ⇒ 全140校の80年整備計画（＝施設長寿命化の1サイクル期間での全体事業計画）を組み立てて設定したもの
- ▶ この事業計画に基づき計画的に整備を実施し、老朽化対策と教育環境の向上を、一体的に推進
 - ⇒ 年々変化する施設状態を継続的に調査・把握し、必要に応じ、事業計画を見直す

実施校数	本計画期間											期間計	
	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034		
改築	早期改築型	-	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	6
	延命改築型	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2群サイクル型	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大規模改修	大規模延命型	-	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	4
	（うち中規模延命）	-	1	3	4	3	2	3	3	2	2	2	25
	標準型	-	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	5
標準型	-	2	0	1	2	3	1	1	2	1	1	14	
保全改修	-	0	0	0	1	0	1	1	1	2	2	8	
小規模改修	26	14	6	9	7	4	8	6	4	6	6	70	
総計	実施校数	26	17	10	14	14	10	14	11	11	13	13	127
総計	総事業費（百万円）	2,005	2,023	3,125	8,288	14,328	15,748	15,397	15,745	16,008	17,776	18,801	127,240

(2) 整備水準

- ▶ 各施設や各部屋の整備の基本形や考え方を示す
- ▶ 当計画の上位計画である「浜松市小中学校施設整備適正化方針」で示した「6つの整備の方向性」を具現化したもの（各施設の整備理念や各部屋の整備重点事項などをイラストと共に表現）
- ▶ この整備水準をベースに基本形を構築するとともに、各学校の特性に応じたカスタマイズを加え、市全体の教育施設の公平性と学校の個性に対応した、魅力ある教育環境を構築していく

分類	整備水準作成対象
施設	校舎、体育館、武道場、附帯施設（附帯建築物、工作物） など
部屋	普通教室、多目的教室、特別教室、発達支援学級、各種支援教室、職員室、給食室、共用空間 など
社会的ニーズ	安全対策、環境対応 など
事業手法毎の適用範囲	大規模改修、保全改修、小規模改修

▶ 学校教育に必要な機能の確保に向け、施設規模や整備仕様を定める各種指針を作成し、整備水準を補完

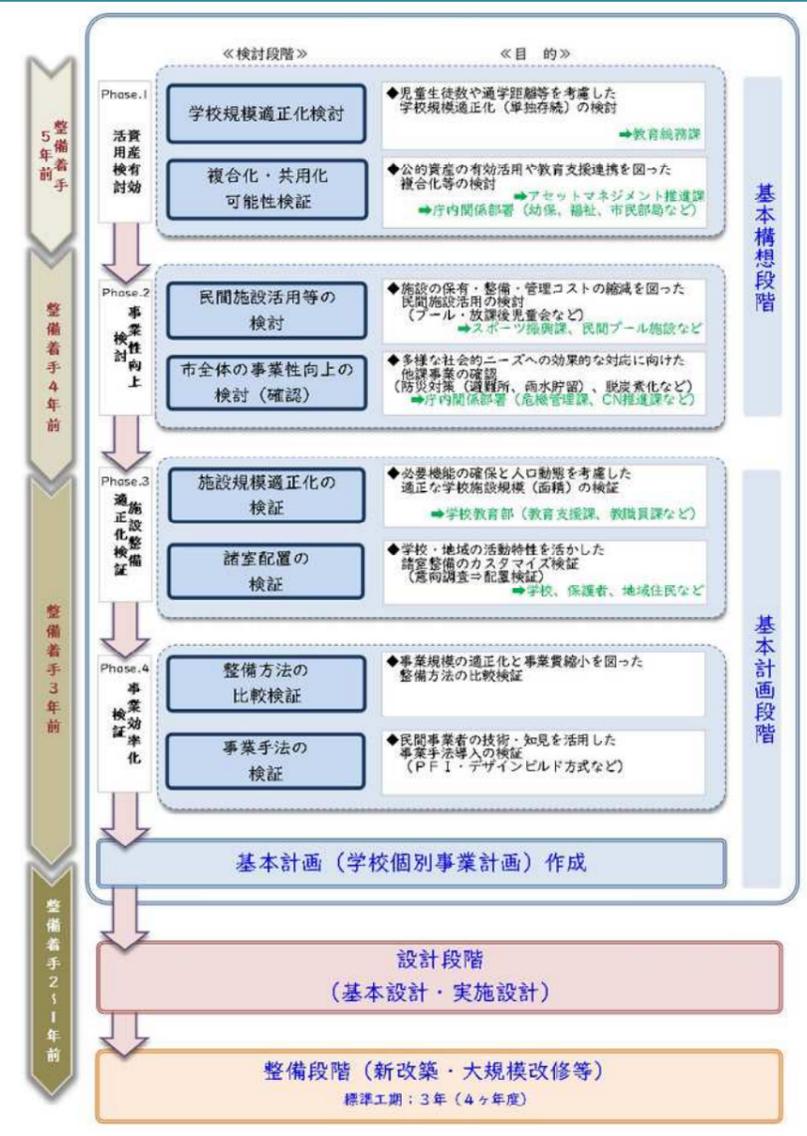
整備水準を補完する各種指針類				
種類		内容		
規模設定指針		児童生徒数等に応じた学校施設の面積等を示すもの		
各種整備指針	校舎	体育館	武道場	各施設内の教室等のあり方や基本形（機能）等を示すもの。
	プール	附帯建築物等	空調設備	各施設・設備の整備（更新）の方針等を示すもの

(3) 整備プロセス

- ▶ 個々の学校施設の整備を着実に進めるための事業手順を示すもの
- ▶ 「6つの整備タイプ」により施設整備（着工）の概ね5年前を目途に基本構想を開始
- ▶ 中長期的な視点による今後の学校施設のあり方を模索する中で、以下の検証を進め、総合的な観点から事業手法を決定し、学校施設整備を実施

<基本構想・基本計画段階>

- ▼ 現在浜松市が所有する資産の有効活用の視点による検討
- ▼ 社会的な動向や多様化するニーズへの対応の視点による検討
- ▼ 事業規模の妥当性について将来を見据えた視点による検証
- ▼ 事業全体に係る費用の縮減化に向けた視点による検証



(4) マネジメントサイクル

- ▶ 持続的な施設整備・管理を進めるためのマネジメントの手順を示すもの
- ▶ 継続的な法令点検や施設パトロール（任意点検）による予防保全の取り組みと、施設の改修履歴の正確な把握により、適切なタイミングによる整備を実施
- ▶ 着実な整備の推進と、蓄積した学校施設整備に関するノウハウを活かした計画や指針類の改善に取り組み、計画を継続的に推進

